



季節のエッセー
いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ネコノメソウ」

(ユキノシタ科)

変わりやすいことをたとえて、「まるで猫の目のようだ」と言う。猫が、周囲の明るさによってクルクルと瞳の大きさを変えるところから、生まれた言葉である。しかし、この草の名前には、変わりやすいという意味はない。ネコノメソウの実丸く、熟すと真ん中がパツクリと割れるのだが、この割れ目が、明るいとところにいるときの猫のタテ長の瞳に、よく似ている。昔の人の細やかな観察眼に、つくづく感心させられる命名である。ネコノメソウは湿った場所を好み、田んぼのすみなどに泡立つように生える。その花と葉の色彩は、黄から緑への明るいグラデーションになっていて、春の日差しを受けてキラキラと輝く水面によく映える。

参考資料:澤口たまみ著「岩手の野草百科」(岩手日報社発行)より

特集

畜産酪農部3ヶ年(28~30年度)
計画基本方針

畜産酪農部

純情産地発 クララー K L A R A vol.802 2016.5

タイトルのKlara(クララー)は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集		報告! 出向く活動班	08
畜産酪農部 3ヶ年計画基本方針	03	純情むすめ活動記	09
消費地だより	06	純情人 新入職員編	09
JAタウン いわて純情館	06	ニュースワイドアングル	10

特集 — 畜産酪農部3ヶ年(28~30年度)計画基本方針

肉畜集荷計画頭数(年度別)

品目	27年実績	28年目標	29年目標	30年目標
黒毛和種	5,473頭	5,300頭	5,150頭	5,150頭
日本短角種	576頭	500頭	510頭	495頭
その他肉牛	5,426頭	5,000頭	4,500頭	4,050頭
ホルスタイン種	5,217頭	4,200頭	4,200頭	4,200頭
交雑種	1,624頭	1,600頭	1,300頭	1,300頭
肉牛計	18,316頭	16,600頭	15,660頭	15,195頭
肉豚	273,849頭	270,000頭	275,000頭	290,000頭

家畜市場上場計画頭数(年度別)

品目	27年実績	28年目標	29年目標	30年目標
黒毛和種	19,854頭	19,000頭	18,500頭	18,400頭
日本短角種	903頭	800頭	800頭	800頭
初生牛	15,737頭	14,000頭	14,000頭	14,000頭

生乳取扱数量計画(年度別)

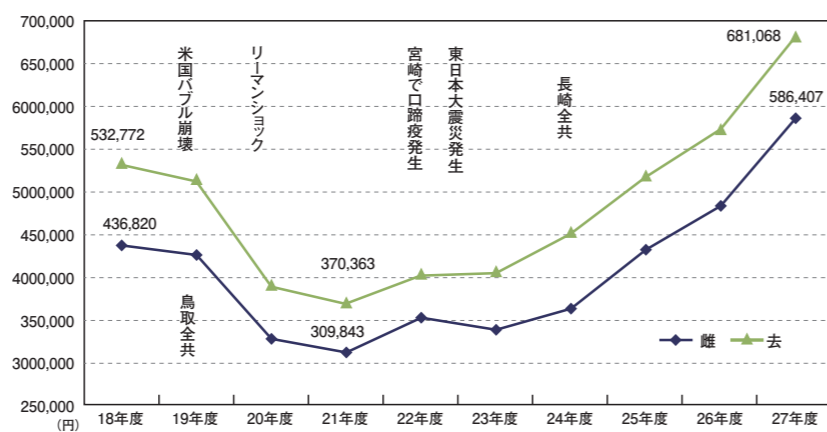
品目	27年実績	28年目標	29年目標	30年目標
生乳取扱数量	206,560ト	201,595ト	198,624ト	195,698ト

行動計画(年度別)

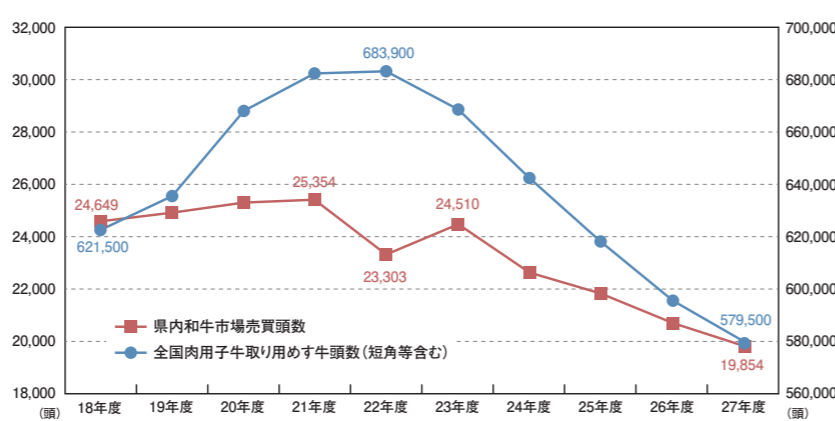
実行具体策	行動計画			
	27年実績	28年目標	29年目標	30年目標
1. 畜産事業推進に向けた具体策				
(1) 和牛繁殖基盤対策事業	168頭	200頭	200頭	200頭
(2) 巡回指導での分娩間隔短縮による生産性向上		50戸	30戸	30戸
(3) 全農ET研究所の受精卵活用	800個	1,000個	1,300個	1,500個
(4) 借り腹事業での無償移植	120個	300個	300個	300個
(5) 借り腹事業産子の斡旋	—	145頭	195頭	205頭
(6) いわて牛五ツ首首都圏取扱店拡大	10店舗	10店舗	12店舗	13店舗
(7) 牛肉輸出事業の推進	31.8ト	27ト	30ト	30ト
(8) 肉豚産地提携事業の拡充	140,000頭	140,000頭	142,000頭	142,000頭
2. 生乳取扱数量維持に向けた具体策				
(1) 初妊牛導入助成事業	360頭	550頭	450頭	450頭
(2) 搾乳牛舎増設助成事業	183床	200床	130床	130床
(3) カウコンフォート事業	54戸	50戸	50戸	50戸



全農いわて和牛子牛市場 売買平均価格の推移(県合計税抜)



全国肉用子牛取り用雌牛並びに県内和牛市場市場売買頭数の推移



I. はじめに

日本人の平均寿命は年々伸びているにも拘らず、大正9年の国勢調査開始以降初めて人口減少(岩手県人口減少率第7位3.8%)に転じました。このことは全国における少子高齢化を如実に示しています。

本県における畜産酪農の生産基盤においても生産人口の高齢化による廃業が進み、中核農家の育成が追いつかず減少の一途をたどっており、生産基盤の維持が喫緊の課題となっています。

また、TPP交渉の大筋合意により、先行きの不透明感が一段と増し、肉用牛のみならず酪農および養豚事業においても、一部の企業畜産を除いて生産基盤の縮小が深刻化しています。

このような状況の中、集中した生産基盤対策事業の展開により、後継者および若手生産者の基盤拡充を図るとともに、農家経営基盤の安定及び販売機能の強化に重点的に取り組めます。



II. 基本方向

1. 系統組織一丸となった指導体制のスキルアップと生産性の向上

2. 系統組織の機能を活かした和牛の県内一貫生産体系の確立による農家経営基盤の安定

III. 実施具体策

1. 生産基盤の維持拡充

(1) 「和牛繁殖基盤対策事業」の推進による中核農家の育成

(2) 「搾乳牛舎増設助成事業」および「初妊牛導入対策事業」による増頭支援

(3) 和牛改良センター機能の拡充による県内一貫生産体系モデルの確立と生産コスト圧縮支援

2. 販売機能強化による有利販売の推進

(1) 供給先および全農グループ会社との連携強化による「肉豚産地提携事業」の拡充

(2) 和牛市場購買者誘致に向けた県外キャンペーンおよび購買者懇談会の実施

(3) 県内小中学校の学校給食における食育活動と連携した「いわて牛」いわて短角牛の利用促進並びに、スポーツ大会への協賛を通じた露出度アップによるエンドユーザーの掘り起こし

(4) いわちくとの連携による「いわて牛」として輸出可能な対象牛集荷の強化

3. 生産性の向上対策

(1) 「乳質改善事業」、「カウコンフォート事業」による生産性向上対策の実施

(2) 農家や外部支援組織(酪農ヘルパー利用組合、TMRセンター等)への指導支援

(3) 生産指導課を核として、JAおよび関係機関と連携した指導体制による生産性向上対策指導のスキルアップ

4 改良増殖事業の推進と「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」対応

(1) 全共対策用肥育技術の研鑽向上と種牛の部の出品対策技術の強化

IV. おわりに

経済至上主義による資本主義を標榜し、国内における貧富の差が拡大する昨今の状況において、国による「農政の転換」、「JA改革」、「TPP協定合意」は、現在の畜産酪農事業に大きな変動をもたらす状況と思われます。このような状況の中、今次3ヶ年計画においては企業畜産のみならず、農家が家族経営として畜産酪農事業が成り立つような事業に取り組んでまいりたいと考えています。

そのためには、生産者・会員JA、更には岩手県を始めとする行政並びに関係機関が一丸となって取り組むことが不可欠です。

目標達成に向け役員一同一致団結して取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

みんなの分教場



米穀部 米穀販売課
技術主管
伊藤 専一

農業倉庫等を取りまく 環境の変化について

■農業倉庫経営体・収容力の推移(8月現在)

	経営主体	普通倉庫 収容力 (千トン)	棟数	1棟当たり 収容力(t)	CE収容力 (千トン)	収容力 (千トン) 計
平成3年	2,972	8,188	12,998	630	1,203	9,391
平成27年	583	5,939	6,144	967	2,639	8,577



いわて純情米広域集出荷センター「絆」



いわて純情米広域集出荷センター「絆」

第1. 農業倉庫業法の生い立ち
明治から大正時代の食生活は穀物主体で肉休労働者は、1日1升の米を消費していました。大正時代は、豊作・凶作の繰り返りで米価が暴落暴騰し、そのことによる生産者消費者の惨憺たる状況を救うために、農業倉庫の設置を促

第2. 農業倉庫業法の廃止
JAの保管は、今まで農業倉庫業法に依り運営されてきました。この法律は大正6年に制定され約100年を経過しています。平成9年に行政改革委員会から制定当時の使命は終え形骸化していると、国に検討が求められました。これを受け農水省

保管と検査は米流通の「車の両輪」と言われています。農産物検査では、平成28年4月に農林水産大臣から都道府県知事に農産物検査の事務権限が一部移譲されています。保管管理業務では、農業倉庫業法が廃止となり、この概要をお知らせします。

進し「価格の調整(安定)と需給の調整(安定)」を図るため、大正6年7月に農業倉庫法が制定されています。大正時代の米の生産量は約800万トン、保管倉庫は、ほとんどが流通業者の倉庫であり、収穫された米は買い占め又は買いたたきにあい、生産者及び消費者双方が苦しむという、社会的、経済的の不安が大きななか、国は米価の安定を図るため、農業倉庫の設置を奨励し年間安定した販売を試みたところでありました。

第3. 今後の保管業務について
農業倉庫運営に関する「農業倉庫業法」は廃止となりました。今までの農業倉庫等は当該施設(自家用倉庫)となり、組合員、JAの農産物等保管を行う目的で引き続き活用されます。組合員の生産物は自己責任のもとで保管されることとなり、共同利用する施設として、引き続き生産者の委託物品を保管することになります。

最後に、当時の農商務大臣が農業倉庫業法制定で、「農村農民の振興のために社会的経済的に完全な組織をつくらしめ、将来にわたって確固たる基礎のもとに、真にその幸福を増進せんことを期す」との精神は、保管事業に携わる者として大切なものとなります。



いわて純情野菜幹事会のメンバー

同会の立波裕之幹事長(横浜丸中青果株上席執行役員)



幹事長挨拶

昨年度は、各幹事会社の協力により全農岩手県本部の事業計画を達成することができました。今年度は、全農岩手県本部の機構改革により消費地販売部が新設されました。生産者の所得確保を最優先として、今まで以上に産地と消費地の連携を強化し、平成28年度野菜販売計画177.3億円を達成できるよう各社のご協力をお願いいたします。

「いわて純情野菜幹事会」で活動計画を決定しました。

今年の東京の桜前線は、平年より早い3月21日に開花宣言があり、あっという間に北上しました。桜前線の通過とともに春耕の時期となりますが、右手の農産物が作柄の良い年になることを願っています。

消費地販売課は、新年度を迎えた4月18日(月)に第1回「いわて純情野菜幹事会」を開催し、活動計画を協議しました。今年度は、年度初めや出荷最盛期直前、出荷終盤、年度末など出荷のポイントとなる時期に幹事会を開催するほか、長期間の価格低迷や品質クレームなどの緊急時には臨時幹事会を開くこととしました。さらに、果菜部会・葉根菜部会・洋菜部会・きのこ部会の4品目部会を設置し、重点品目の生産・販売に関する情報交換や品質査定等の活動を充実させ、産地のレベルアップをはかります。特に品質や選別において個人・JA間格差のある「ねぎ」と「生しいたけ」について市場巡回による品質調査の実施を決定しました。

「いわて純情野菜」は、約6割を大消費地である京浜地区へ出荷しており、消費地販売課は京浜地区指定青果会社10社を構成とする「いわて純情野菜幹事会」の事務局として、有利販売に向けた取り組みや産地への提言などをまとめています。

今回の幹事会で各青果会社からは、野菜の供給責任産地として『安定出荷・安定品質』を望む意見が出され、消費地での「いわて純情野菜」への期待の大きさを感じました。



消費地販売部 消費地だより



今月のリポーター
消費地販売課
鈴木 公課長

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

産地直送通販サイト

JAタウン いわて純情館

注目の一品!



きめ細かな霜降りが特長の「いわて牛」
極上の美味をご堪能ください
いわて牛サーロインステーキ
(3枚入り)

「いわて牛」のサーロインをステーキ用に手切りしました。霜降りのサーロインステーキは柔らかく、一口噛むと旨味が口いっぱいに広がります。一貫した生産体制と、一頭一頭を慈しむ畜産農家のきめ細やかな愛情。大自然を父として、つくり手の思いやりを母として、芸術品とも言われる「いわて牛」の美味しさが育てられます。繊細な霜降り肉を厳選した、贅沢なサーロインステーキです。



JAタウン「いわて情報館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。

いわて純情館





出向く
活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班 次長
村上 勘爾

平成28年度JAいわてグループ
農業担い手サポート事業決定!



JA担い手担当部長会議の様子

平成28年度のJAいわてグループ農業担い手サポート事業(28年度から3年間で総額6億円の予算規模)の決定に伴い、担い手サポートセンターは去る4月8日、岩手県産業文化センターで「JA担い手担当部長会議」ならびに「JAいわてグループ農業担い手サポート事業に係るJA関係部門合同説明会」を開催しました。

担当部長会議では、新たに発足したJAいわてグループ農業担い手サポートセンターの事業計画、業務サポート事業の概略を報告。午後からの合同説明会にはJAの関係部門責任者や担当者90名以上が出席しました。

昨年度までは「担い手対策要領」により、全農岩手県本部として担い手支援を実施してまいりましたが、平成28年度からはJAグループが一体となり、当事業により担い手支援を実施することとなります。出向く活動班は、21事業のうち4事業を所管しており、米穀・園芸・畜産関連のほか、農作業効率化や6次産業化支援、人材育成・確保、食育など、展開するサポート事業は多岐に渡ります(表「平成28年度JAいわてグループ農業サポート事業」)。新たな支援として、麦・大豆生産性向上対策事業、畜産生産基盤拡大支援対策事業、労働力確保支援対策事業、食育(いわて牛・いわて短角牛)支援対策事業を加えることも

平成28年度JAいわてグループ
農業担い手サポート事業

事業名	
1 新規就農者・後継就農者育成対策事業(45歳以上・65歳未満)	出向く活動班
2 6次産業化支援対策事業(商品開発・販売促進)	
3 米穀出荷合理化支援対策事業	
4 フレコン設備リース導入支援対策事業	
5 麦・大豆生産性向上対策事業	
6 集落営農組織(任意および法人)に対する園芸栽培支援対策事業	
7 園芸連作障害対策事業	
8 果菜類収量向上対策事業	
9 畜産生産基盤拡大支援対策事業	
10 農作業効率化(農業ICT技術導入含)支援対策事業	
11 若手担い手育成対策事業	
12 海外農業実習生受入支援事業	
13 労働力確保支援対策事業	
14 食育(いわて牛・いわて短角牛)支援対策事業	応援PG班
15 農業近代化資金借入に係る保証料助成事業	
16 集落営農組織等法人化設立支援対策事業	
17 コンサルタント費用支援事業	
18 新規就農応援事業	
19 輸出米振興対策事業	
20 6次産業化支援対策事業(セミナー)	
21 ぐらしの活動推進対策事業	
	営農企画班
	担い手企画班
	(JA総合対策部)ぐらし広報班

に、従来からの要領についても助成金額をアップするなどして、担い手支援を強化しています。このほか、JAの総合事業発揮に向けた支援として、担い手専任部署の設置支援や、JA内部連携会議の開催、TAC担当者のスキルアップに取り組むとともに、高度化・専門化する担い手ニーズの把握と解決に向け、出向く活動(JA-TACとの同行訪問等)を通じて、提案活動を展開してまいります。

めまぐるしく環境が変化していく昨今、JAいわてグループとして安全・安心な国産農畜産物を安定的に供給できる農業基盤を確立するために、純情産地いわての基盤を支える担い手のニーズに応え、農家組合員等担い手の所得増大、農業生産の拡大および地域の活性化等の実現に向けて全力で取り組みます。

各事業のお問い合わせにつきましては、担当部署までお願いします。



合同説明会の様子

【担当部署連絡先】
出向く活動班 ☎019-626-8522
応援PG班 ☎019-626-8516
営農企画班 ☎019-626-8523
担い手企画班 ☎019-626-8524
ぐらし広報班 ☎019-626-8519

JA全農いわての
純情人

新入職員編



入会后、約1ヶ月間のJA研修を終え、それぞれの部署へ配属されました。今年度、この9人が新たに「純情人」に仲間入りです!!

おのしょうた 小野 将太

所属 管理部 総合企画課
出身地 岩手県盛岡市
趣味・特技 ハンドボール、スポーツ観戦、スポーツ、映画鑑賞、ドライブ
好きな言葉 「気は技を制す」…中学校の部活でモットーにしていた言葉で、まさしくその通りだと今になって感じています。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 日本の農業に関して、生産者への消費者へもサポートをしている大きな組織だと感じていました。
社会人としての意気込み 失敗を恐れず、何事にも挑戦し、1つ1つの仕事に責任を持って行動していきたいです。

つがわひろか 津川 紘香

所属 管理部 総務人事課
出身地 岩手県盛岡市
趣味・特技 水族館巡り、ドライブ、水泳
好きな言葉 「好奇心」…何事にも興味を持って自発的に取り組むことが大切だと思うからです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 「生産者をサポートし、生産者の利益を向上させる組織」というイメージを持っていました。
社会人としての意気込み 至らない部分もあるかと思いますが、早く仕事を自分のものにし、全農職員の一員として生産者の力になりたいと思います。宜しくお願い致します。

いままつこうき 今松 光貴

所属 資材部 エネルギー課
出身地 岩手県岩手郡岩手町
趣味・特技 野球、バスケット、スケートボード、食べる事
好きな言葉 「苦難は成長の種 成長は喜びの花」…目標を達成するために悩むことや努力することで成長できるから。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 日本の農業と農家を支える農家の方々の目線に合わせて物事を考えサポートする仕事、少しお堅い仕事というイメージ。
社会人としての意気込み 早く仕事を覚え生産者と消費者を安心で結び懸け橋になれるように頑張ります。自分が一番いいのでフレッシュさと明るさを出して仕事に取り組んでいきます。

いずみたそうすけ 泉田 壮祐

所属 畜産酪農部 家畜市場課
出身地 岩手県住田町
趣味・特技 映画鑑賞、新しくゴルフを始めたいです。
好きな言葉 「何かを学ぶのに、自分自身で経験する以上に良い方法はない(アインシュタイン)」…いろいろなことを経験し、学んでいきたいです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 北海道にいたので、ホクレンの全国版のような組織だと漠然と思っていました。
社会人としての意気込み 農家の方々と一緒に農業を盛り上げていきたいです。めげずに、しよげずに、泣かないで頑張ります。

すずきひろ 鈴木 比呂

所属 資材部 肥料農業推進課
出身地 岩手県花巻市
趣味・特技 (趣味)48グループの応援、野球・サッカー観戦 (特技)野球、ソフトボール
好きな言葉 「決してあきらめない」
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 農業のイメージと菊池雄星さんのポスター
社会人としての意気込み 今までお世話になった方々に恩返しするためにも、何事にも全力で取り組んでいきます!!

おおうちしゅうえい 大内 修瑛

所属 農機事業部 農業機械課
出身地 岩手県盛岡市
趣味・特技 サッカー、買い物、犬の散歩
好きな言葉 「想いは力」…自分の原動力だからです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 農家と消費者を繋ぐ組織であり、お堅いイメージがありました。
社会人としての意気込み 早く立派な職員となり、仕事を多く任せられる様になりたいです。

すがわらまさのぶ 菅原 大展

所属 園芸部 生産販売課
出身地 岩手県花巻市
趣味・特技 アメリカンフットボール、電車で旅行
好きな言葉 「至誠天地を動かさん」…母校、花巻北高校の精神です。至誠の感する所、天地もこれが為に動くのです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 農産物のパッケージやスーパーなどでも目にすることがあった「全農」の2文字。私たちの生活の根底にある「食」を届ける魅力的な組織だと感じていました。
社会人としての意気込み これからの農業を背負う全農の職員として、日本の農産物の素晴らしさを消費者に届け、日本、そして愛する岩手の農業の発展に尽くします。

きむらじょうじ 木村 丈治

所属 畜産酪農部 酪農課
出身地 岩手県陸前高田市
趣味・特技 スポーツ(全般の)、ドライブ、音楽鑑賞、ダンス
好きな言葉 「人生一度さり」[出会いの数だけ 笑顔が生まれ 笑顔の数だけ幸せになる]…私が「スベクトしているEXILEの曲の中にある歌詞なのですが、今という時間は1回しかないし、たくさんの出会いが自分を成長させると思ったからです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? 最初は少しお堅い感じだと思っていました。生産者と消費者との関わりが多くあり、たくさんの方々とコミュニケーションをとって日本の農業を支える大きな組織のイメージもありました。
社会人としての意気込み 今年はいわて国体があり、全農の看板を背負って地元陸前高田市や岩手県に勇気や感動を与えられるよう、全力でプレーします。また、新人職員らしく元気に仕事をし、たくさんの方々に顔と名前を覚えてもらえるように頑張ります。

つかもとゆうき 塚本 友樹

所属 園芸部 花き・資材課
出身地 岩手県北上市
趣味・特技 ダブルダッチ、スノーボード、剣道
好きな言葉 「克己心」…剣道をやっていた時から大切にしていた言葉です。これら先壁にぶつかってくじけそうな時や自分に甘えてしまいうような時にも、この言葉を胸に自分に打ち勝ち、努力していきたいです。
入会前、感じていた「全農」のイメージは? JAのマークは昔から様々なところで目にしてきましたが、具体的にはどんなことをしているのかは分かりませんでした。日本の食に深く関係している組織であることは漠然としたイメージとしてありました。
社会人としての意気込み 少しでも早く組合員の方たちの力になれるよう、一生懸命取り組みます!

「おにぎり笑顔美人」グランプリ決定!

2月24日(水)

第2回恋するおにぎり笑顔美人コンテスト表彰式

JA全農いわては盛岡市内のエスポワールいわてで第2回恋するおにぎり笑顔美人コンテストの表彰式を行い、グランプリに選ばれた大阪市会社員木瀬遥さん(25)を表彰しました。

式には関係者ら約20人が出席。JA全農いわての畠山俊彰本部長が木瀬さんに表彰状と、副賞として旅行券と県産ひとめぼれ60キログラムの目録を手渡しました。木瀬さんは岩手県産ひとめぼれの印象として「かめばかむほど、甘みが出て、美味しいなっていうのが率直な感想。見た目もふっくらしていて、つやがあったので、ほかのお米とちょっと違うなと思った」と話しました。

コンテストは、食を通して女性のキレイを応援するJA全農いわての「恋するおこめプロジェクト」と、インターネット上で女性が時刻を知らせる「美人時計」共同の企画。県産米の認知度向上と消費拡大を目的に2014年度に続き実施しました。

同日はこのほか、高級炊飯器や冬恋りんごなど豪華賞品が当たる「いわてのおこめでもっと朝ごはんキャンペーン」の抽選会も行いました。



グランプリに選ばれた木瀬さん

65頭が一次通過

3月3日(木)・4日(金)

宮城全共出品候補牛幹旋会

和牛能力共進会岩手県出品対策委員会は、JA全農いわて県南家畜市場と中央家畜市場で、2017年に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会(全共)に向けた出品候補牛幹旋会を開きました。当日は委員らの畜査により、総合評価群、若雄後代検定牛群の出品候補となる65頭(県南=33頭、中央=32頭)を選抜。選抜牛は肥育農家に引き取られ、来年の県最終選抜を経て宮城大会へと進みます。

全共は「和牛のオリンピック」とも称され、和牛の能力と斉一性の向上を目的に、改良の成果を発表する場として5年に一度開催されます。同委員会は宮城全共に向けて一昨年11月より出品牛の交配構成に着手し、500頭を超える交配の結果、350頭以上という過去最大の候補牛素材を得ました。1997年に本県で開催された第7回全共では岩手が日本一に輝いた実績があり、第11回全共では20年ぶりの奪還を目指します。

同日は九つある出品区分のうち、最重点区である総合評価群肉牛(7区)と若雄後代検定牛群肉牛(8区)の一次選考会に位置付けられ、県内の繁殖農家が、生後4~6ヶ月の肉牛(去勢)98頭(県南=56頭、中央=42頭)を出品。体型や発育などの項目を委員らが審査しました。

全国和牛登録協会県支部支部長を務めるJA全農いわて畜産酪農部の後藤和彦部長は「岩手の改良成果を全国に示すため、生産者・関係機関が全力で取り組み、頂点を目指す。全共で勝つ

ことにより、岩手の市場評価を更に高めたい。特に素牛供給市場としての位置を確立し、県内繁殖農家に誇りと自信を更に持ってもらいたい」と話しました。

出品候補牛12頭を引き取った繁殖・肥育一貫農家の中村鉄男さん(盛岡市玉山区)は「県代表への道は険しい。まずは3ヶ月かけて子牛のからだをしっかりと作りあげてから、全共へ向けて肥育していく」と意気込みを語りました。

県最終選考では各出品区3頭ずつを選抜(9区のみ2頭)し、9区分合計26頭が県代表として全共に臨みます。全共宮城大会は来年9月に仙台市内で開催される予定です。



幹旋会の様子



JA全農いわては今年、9人の新入職員を迎えました。約1ヶ月の研修期間を終え、4月末から本格的に仕事を始めたばかりの彼ら。電話対応にあたふたしていた、自分の入会当初を思い出しました。(千葉)

先月発行しました「クラーラ」4月号(Vol.801)に誤りがありました。

P08~09「平成28年度全農岩手県本部編成表」
(誤)営農技術課 課長代理 千葉 丈
(正)営農技術課 千葉 丈

読者の皆さまならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

いわてのお米PRイベント開催

JA全農いわては今秋の「銀河のしずく」デビューに向け、米消費拡大運動に力を入れています。

3月25日(金)

「銀河のしずく」生産・販売キックオフイベント

岩手県の新ブランド米「銀河のしずく」の生産・販売キックオフイベントが盛岡市内のホテルで開かれ、生産・流通関係者ら約300名がブランド化に向け決意を新たにしました。イベントでは達増拓也知事が「岩手の顔として広く愛される品種になることを確信しています」と挨拶。28年産の作付を担う生産者に登録証と種もみを手渡しました。これに対し、生産者を代表してJA新いわて水稲生産部会の晴山保正会長が「高品質、安全・安心で美味しい『銀河のしずく』を提供していきます」と決意表明しました。



当日発表された「銀河のしずく」ロゴマーク。太陽や水など、美味しいお米に必要な九つの要素で構成し、銀河の輝きとこぼれるしずくを表現しました



一致団結し、早期ブランド化に向けて取り組むことを誓いました

3月1日(火)

サンビル「純情ステーション」で米消費拡大イベント

JA全農いわては盛岡市内の岩手県産業会館(サンビル)で、米消費拡大イベントを行いました。2015いわて純情むすめ5人が、岩手県の新ブランド米「銀河のしずく」と、全農が発売した「お米のミルク」をPR。来場者へ試食・試飲サンプルを手渡しました。

岩手県は「食べよう!いわての美味しいお米」を合言葉に県産米消費拡大運動を展開しています。JA全農いわてはこれに協賛し、運動の一環として今回のイベントを企画しました。積極的に運動に参加し、岩手のお米を応援する「お米サポーター」への登録を、サポーターの一員である2015いわて純情むすめが呼び掛けました。

「銀河のしずく」は、日本穀物検定協会による「食味ランキング」で最高評価の「特A」を受賞した県オリジナル水稲品種。今秋のデビューを予定しています。食べた人は「粒が大きく、もちもちして美味しい」、「見た目もつやがあり瑞々しい」と感想を話しました。

当日はサンビル内特設ブース「純情ステーション」にて、純情むすめが出演する「純情むすめJUNJO HEART!」(エフエム岩

手)の公開収録も実施。お米をテーマにトークを繰り広げたほか、観客参加型のクイズ大会を行い会場は盛り上がりました。



一致団結し、早期ブランド化に向けて取り組むことを誓いました

3月26日(土)・27日(日)

わんだふお〜パーク2016

JA全農いわては、滝沢市の岩手産業文化センターアピオで開催された「わんだふお〜パーク2016」で、全農ブランド「お米のミルク」をPRしました。2日間でおおよそ1300人に試飲していただき、「甘くておいしい」「料理にも使えそう」と好評でした。

また当日は時間限定で「銀河のしずく」試食を提供。食べた人は「つやつやしてきれい」「冷めても美味しい」と感想を話しました。

「わんだふお〜パーク2016」はテレビ岩手が昨年に引き続き開いた子ども向けのイベント。縁日やキャラクターショーなどが行われ、会場は連日、家族連れなどで賑わいました。



小さいお子様にも好評でした



「純情産地いわて」を
全国に伝えてみませんか?



活動の様子はコチラから▶いわて純情むすめFacebook

2016いわて純情むすめ募集要項

- 応募資格
 - ①平成28年7月1日現在で、満18歳以上25歳以下の健康で明るい未婚女性。
 - ②専攻し、高校生は除く。卒業生は保護者の同意を必要とします。
 - ③前年卒業生は、応募資格は問いません。
 - ④応募要項に準じた1年間を通して、県内外で開催するイベント・販売促進活動・農産体験・ラジオ番組出演等各種行事のほか、研修等に積極的に参加し、協力できる方。
- 応募方法および募集期間
 - 市販の履歴書用紙に必要事項「身長」「志望の動機」「趣味・特技、今まで行ったクラブ活動」「専攻を知った広告媒体(テレビ・ポスター・チラシ)」等を記入の上、3枚以内に撮影した顔写真のカラー写真「全身写真・顔写真(アールサイズ)それぞれ1枚ずつ」を添付し、郵送またはご郵送ください。また、JA全農いわてホームページ内の応募フォームからも同様にご応募できます。応募書類・データは原則として返却いたしませんので、予めご了承ください。
 - 応募締切 / 平成28年5月31日(火)必着。
 - 募集人員 / 5名~8名(予定)

- 審査方法
 - ①第1次選考 書類審査により15~20名程度を選考。結果は書面にて通知いたします。
 - ②面接選考 面接審査(私服着用)により選考。平成28年6月8日(予定)
 - ③普通選考 平成28年6月15日(予定)
 - ④選定式 平成28年6月22日(予定)
 - ※上記日程は変更の可能性があります。
- 賞品
 - ①第1次選考通過者(最終選考不出席者) / いわて純情ギフト
 - ②面接選考者 / 正賞 記念証(記念品)
 - 副賞 国内外共通旅行券(10万円程度)・いわて純情ギフト
- 活動期間
 - 平成28年6月(準備期間) 平成28年7月1日~平成29年6月末日
- 日給
 - 当会規定に基づき、業務の都合等および交通費・宿泊費を支給いたします。

さまざまなイベントでPRしました!

2015 いわて純情むすめ 主な活動実績

第1回いわて純情むすめ発表会(大宮市)	7/6	岩手県フェア(茨城)	10/26~27
岩手県産地フェア(岩手)	7/19	いわて中部産地フェア(茨城)	11/16~18
いわて中部産地フェア(茨城)	7/23	いわて中部産地フェア(茨城)	11/24~26
産地フェア(岩手)	8/6	産地フェア(岩手)	12/4~6
第1回いわて純情むすめ発表会(茨城)	8/22	産地フェア(岩手)	12/11~13
第1回いわて純情むすめ発表会(茨城)	8/27	いわて純情むすめ発表会(茨城)	12/18~20
いわて純情むすめ発表会(茨城)	8/30	いわて純情むすめ発表会(茨城)	12/25~27
いわて純情むすめ発表会(茨城)	9/3	いわて純情むすめ発表会(茨城)	1/1~3
いわて純情むすめ発表会(茨城)	9/17	いわて純情むすめ発表会(茨城)	1/8~10
いわて純情むすめ発表会(茨城)	9/20	いわて純情むすめ発表会(茨城)	1/15~17
いわて純情むすめ発表会(茨城)	9/23	いわて純情むすめ発表会(茨城)	1/22~24
いわて純情むすめ発表会(茨城)	9/27	いわて純情むすめ発表会(茨城)	1/29~31
いわて純情むすめ発表会(茨城)	10/2	いわて純情むすめ発表会(茨城)	2/5~7
いわて純情むすめ発表会(茨城)	10/11	いわて純情むすめ発表会(茨城)	2/12~14
いわて純情むすめ発表会(茨城)	10/18	いわて純情むすめ発表会(茨城)	2/19~21
いわて純情むすめ発表会(茨城)	10/25	いわて純情むすめ発表会(茨城)	2/26~28

応募先 〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 サンビル4F JA全農いわて総合企画課「2016いわて純情むすめ」募集係

応募フォーム <http://www.junjo.jp/> JA全農いわて



JA全農いわて お問い合わせ先 〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号サンビル4F TEL.019-626-8615 受付 9:00~17:00(休)



私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋**になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

